

2023年3月期第1四半期 決算説明資料

2022年8月24日

東証プライム： 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2023年3月期第1四半期決算
2. 2023年3月期業績見通し
3. 資本政策
4. 環境経営への取組み
5. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2023年3月期第1四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2023年3月期第1四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2022年3月期 第1四半期	構成比 (%)	2023年3月期 第1四半期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	4,821	100.0	6,036	100.0	+1,215	+25.2
売上原価	2,873	59.6	3,502	58.0	+629	+21.9
売上総利益	1,947	40.4	2,533	42.0	+585	+30.1
販売費及び一般管理費	1,498	31.1	1,551	25.7	+53	+3.6
営業利益	449	9.3	982	16.3	+532	+118.4
経常利益	556	11.5	1,278	21.2	+721	+129.7
親会社株主に帰属 する当期純利益	329	6.8	847	14.0	+518	+157.6

増収増益

売上高

- ・ポンプ事業は、高水準の受注残に加え、円安によるプラス影響等により増収。主に中国を中心としたアジア地域において堅調に推移。
- ・電子部品事業は、サプライチェーンの混乱による自動車減産等の影響により減収。

営業利益

- ・ポンプ事業における売上ボリュームの増加や円安によるプラス影響、及び主に中国における好調な受注環境を背景とした利益率改善等により増益。

親会社株主に帰属する 四半期純利益

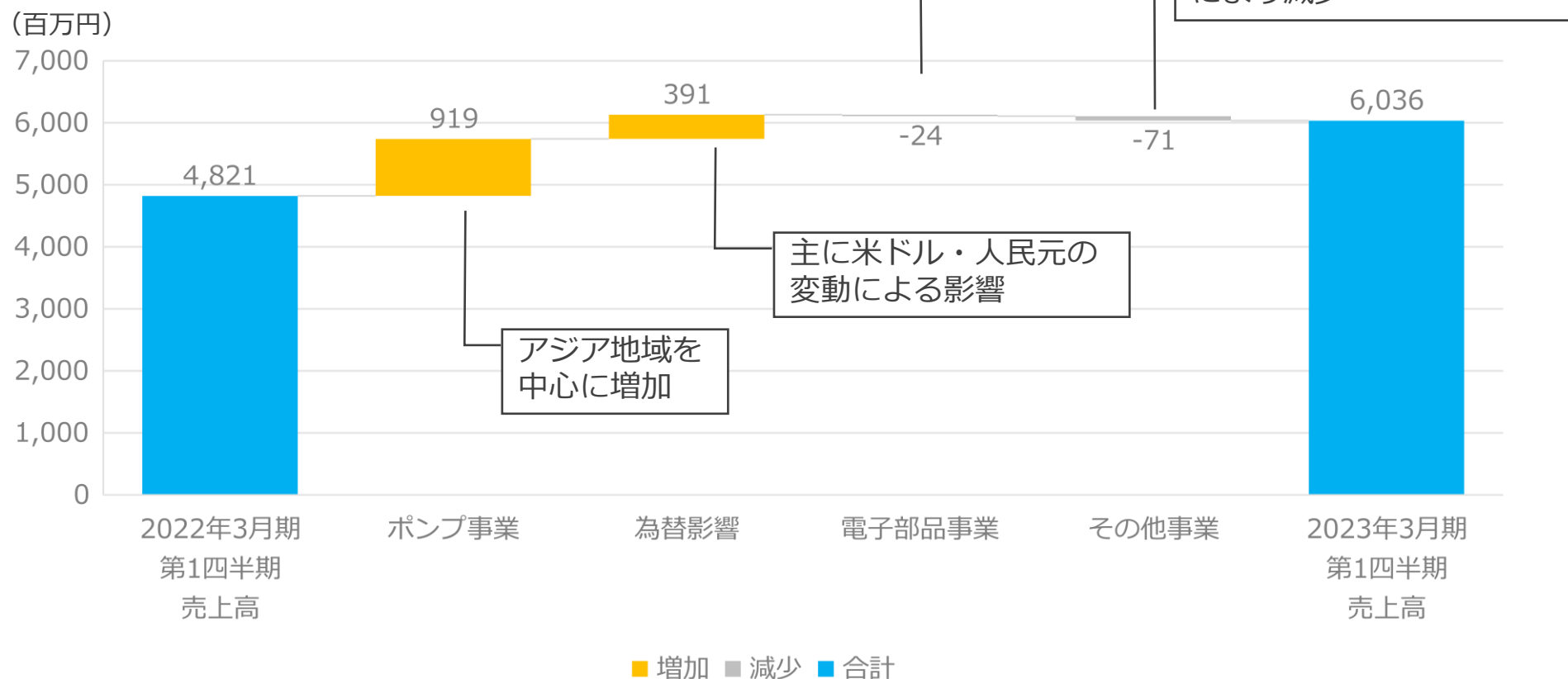
- ・営業利益の増加に加え、為替差益が前期比211百万円増加し、経常利益が721百万円増加したことにより増益。

売上高増減分析



株式会社 帝国電機製作所

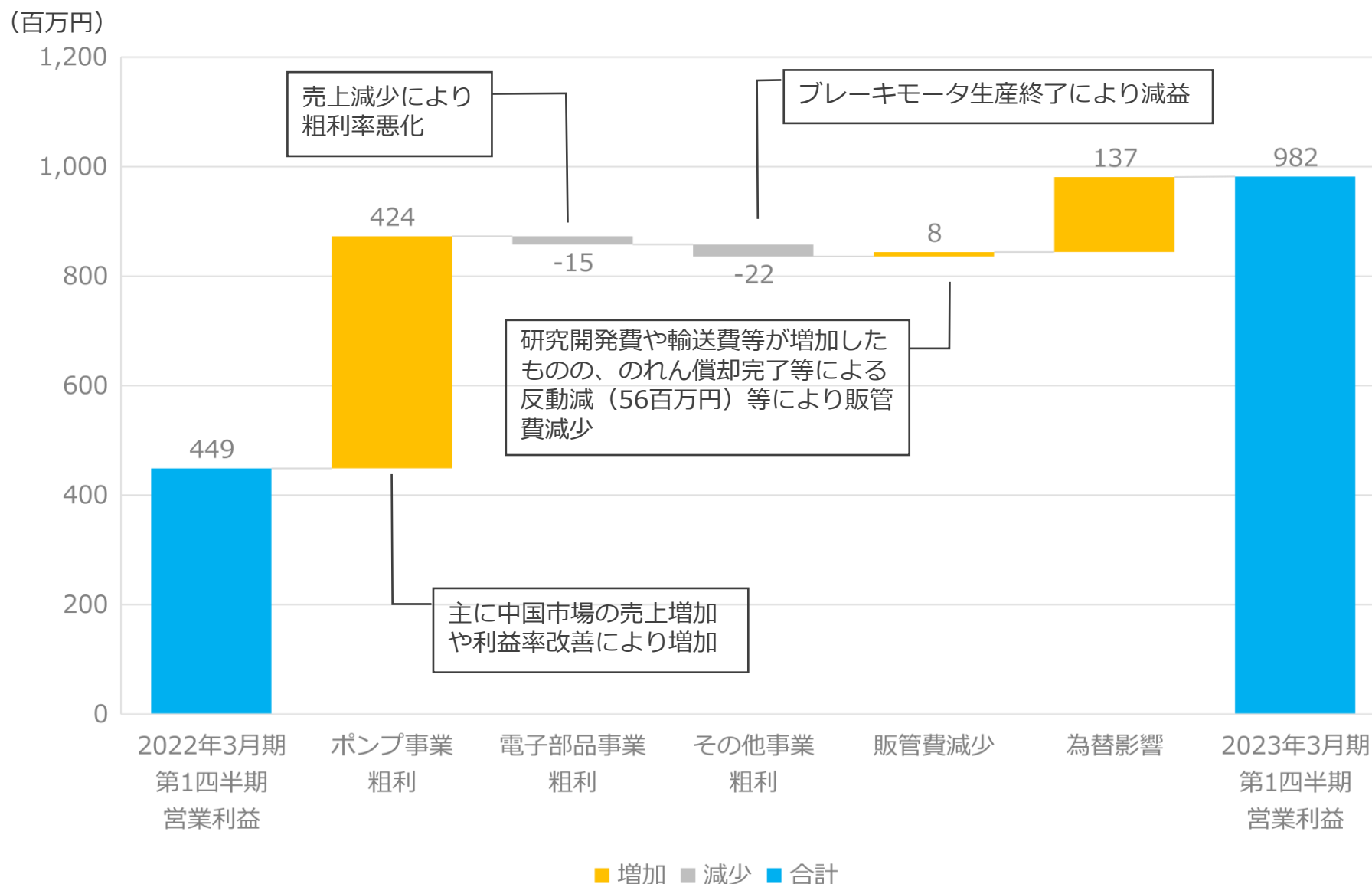
期中平均レート推移	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
U S ドル	106.1円	116.4円
人民元	16.4円	18.3円
ユーロ	127.8円	130.4円



営業利益増減分析



株式会社 帝国電機製作所



種類別セグメント（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	4,279	5,590	+1,311	+30.6%
	営業利益 (営業利益率)	408 (9.5%)	967 (17.3%)	+559	+137.0% (+7.8%)
電子部品事業	売上高	403	379	▲24	▲6.1%
	営業利益 (営業利益率)	24 (6.1%)	5 (1.6%)	▲18	▲76.0% (▲4.5%)
その他	売上高	137	65	▲71	▲52.2%
	営業利益 (営業利益率)	16 (12.2%)	8 (13.5%)	▲7	▲47.1% (+1.3%)
合計	売上高	4,821	6,036	+1,215	+25.2%
	営業利益 (営業利益率)	449 (9.3%)	982 (16.3%)	+532	+118.4% (+7.0%)

ポンプ事業 所在地別売上高



株式会社 帝国電機製作所

- 日 本…前期受注が堅調であったことから増収。主にケミカル向けや輸出の半導体向けが堅調。
- 欧 米…米国は円安効果で増収だがドルベースでは減収。日本からの製品・部品の輸送の遅れや米国内の部品納入遅れ等により生産に遅れが生じていることが要因。
- アジア…中国は高水準の受注残を背景にケミカル向けを中心に好調に推移し増収。

(百万円)		2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	増減	増減率
日本	売上高	1,515	1,671	+156	+10.3%
欧米	売上高	1,076	1,218	+142	+13.3%
アジア	売上高	1,687	2,700	+1,012	+60.0%
合計		4,279	5,590	+1,311	+30.7%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

●主にケミカル機器用が増加

(百万円)	2022年3月期 第1四半期	比 率 (%)	2023年3月期 第1四半期	比 率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	2,199	51.4	3,291	58.9	+1,091	+49.6
冷凍機・空調機器用	388	9.0	470	8.4	+81	+21.1
電力用（車両用）	140	3.3	138	2.5	▲1	▲1.2
電力用（地上用）	111	2.6	143	2.6	+32	+29.0
定量注入機器	157	3.7	58	1.0	▲98	▲62.9
その他ポンプ	21	0.5	122	2.2	+100	+471.2
メンテナンス	1,261	29.5	1,366	24.4	+105	+8.4
合計	4,279	100.0	5,590	100.0	+1,311	+30.6

●ポンプ受注は中国、米国を中心に堅調に推移

(百万円)	2022年3月期 第1四半期		2023年3月期 第1四半期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	4,670	8,092	7,063	12,239	+ 2,393	+ 4,146
電子部品事業	390	150	351	149	▲ 39	▲ 1
その他	102	108	39	89	▲ 62	▲ 18
合計	5,162	8,351	7,454	12,478	+ 2,291	+ 4,127

貸借対照表のポイント



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)

資産の部	2023年3月期 第1四半期	前期末増減
流動資産	28,825	+ 725
現預金	14,426	▲ 15
受取手形、売掛金 及び契約資産 (※1)	6,730	+ 126
電子記録債権	1,263	▲ 15
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	6,110	+ 899
固定資産	11,035	+ 134
有形固定資産	8,816	+ 126
無形固定資産	168	▲ 12
投資その他の資産	2,050	+ 20
資産合計	39,861	+ 859

負債の部	2023年3月期 第1四半期	前期末増減
流動負債	7,369	+ 1
支払手形・ 買掛金	2,194	+ 84
電子記録債務	720	+ 84
短期借入金	380	+ 40
未払法人税等	510	+ 13
その他	3,563	▲ 221
固定負債	1,570	+ 228
純資産	30,921	+ 630
(内自己株式) (※2)	(▲ 2,139)	(▲ 274)
負債・純資産合計	39,861	+ 859

※ 2022年2月9日開催の取締役会において、2022年2月10日から2022年10月31日までを取得期間とした自己株式の取得を決議し、当第1四半期累計期間において自己株式274百万円の取得を行いました（継続中）。この結果、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が2,139百万円となっております。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2023年3月期業績見通し

(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件



株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	全体	・ 前期の堅調な受注により受注残が高水準であり、為替もプラスに影響することから増収増益の見込み ・ 原材料価格高騰やウクライナ情勢等、景気の先行き不透明感から設備投資意欲が減退し、受注は減少の見込み
	日本	・ 前期に新型コロナウイルス感染拡大の影響で止まっていた案件が動き出したことにより受注が増加したことから、期初受注残が高水準であり増収の見込みだが、原材料価格の高騰等により利益は横ばいの見込み
	欧米	・ 前期に主に米国において、経済の正常化に伴い受注が回復傾向にあったことから、期初受注残が高水準であり、増収増益の見込み
	アジア	・ 前期に主に中国において、ケミカル向けの受注が好調に推移したことから期初受注残が高水準であり、増収増益の見込み
電子部品事業		・ 自動車減産の影響や部品不足による生産停滞が引き続き懸念されるが、足許の業績は回復傾向にあることから増収増益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート（期中平均）

1US\$ = 120.0円、1€ = 130.0円、1元 = 18.0円、1KRW = 0.09円、1INR = 1.5円
 （前期実績レート：・ 1US\$ = 109.9円、1€ = 129.9円、1元 = 17.0円、1KRW = 0.1円、1INR = 1.5円）

今期計画（業績見通し）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2022年3月期 (実績)	構成比 (%)	2023年3月期 (計画)	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	22,244	100	24,740	100	+2,496	+11.2
売上原価	13,192	59.3	14,980	60.5	+1,788	+13.6
売上総利益	9,052	40.7	9,760	39.5	+708	+7.8
販売費及び一般管理費	6,557	29.5	6,820	27.6	+263	+4.0
営業利益	2,494	11.2	2,940	11.9	+446	+17.9
経常利益	2,953	13.3	3,130	12.7	+177	+6.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,987	8.9	2,140	8.6	+153	+7.7

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

- 前期3Qでブレーキモータが生産終了となったため「その他」の売上・利益は減少の見込み

(百万円)		2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	20,365	22,810	+2,445	+12.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,443 (12.0%)	2,860 (12.5%)	+417	+17.1% (+0.5%)
電子部品事業	売上高	1,528	1,720	+192	+12.6%
	営業利益 (営業利益率)	19 (1.3%)	70 (4.1%)	+51	+268.4% (+2.8)
その他	売上高	350	210	▲140	▲40.0%
	営業利益 (営業利益率)	32 (9.2%)	10 (4.8%)	▲22	▲68.8% (▲4.4%)
合計	売上高	22,244	24,740	+2,496	+11.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,494 (11.2%)	2,940 (11.9%)	+446	+17.9% (+0.7%)

ポンプ事業 所在地別売上高見通し



株式会社 帝国電機製作所

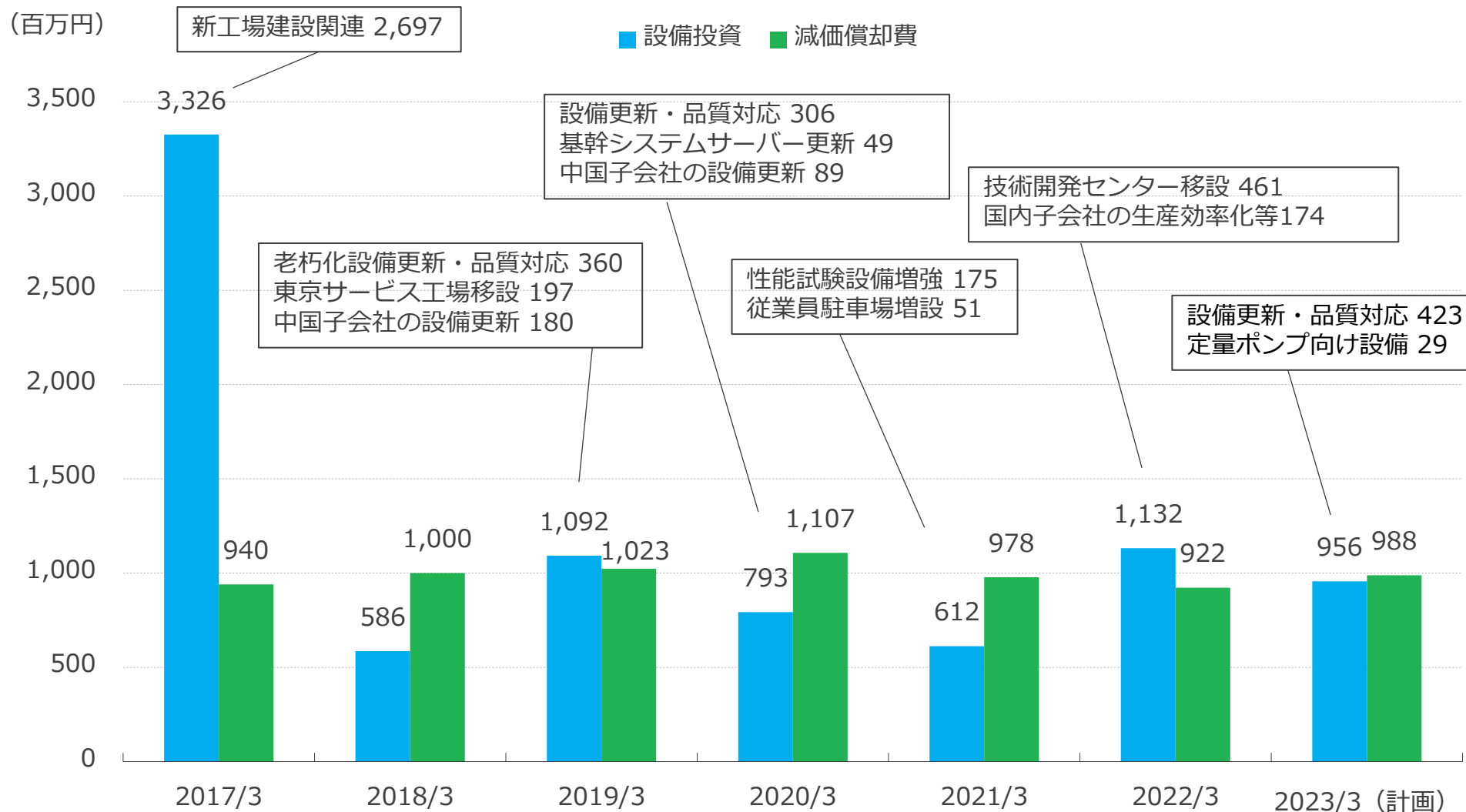
(百万円)		2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)	増減	増減率
日本	売上高	6,679	7,450	+771	+11.5%
欧米	売上高	4,901	5,980	+1,079	+22.0%
アジア	売上高	8,785	9,380	+595	+6.8%
合計	売上高	20,365	22,810	+2,445	+12.0%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間を除く）

設備投資・減価償却費計画



株式会社 帝国電機製作所





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

3. 資本政策

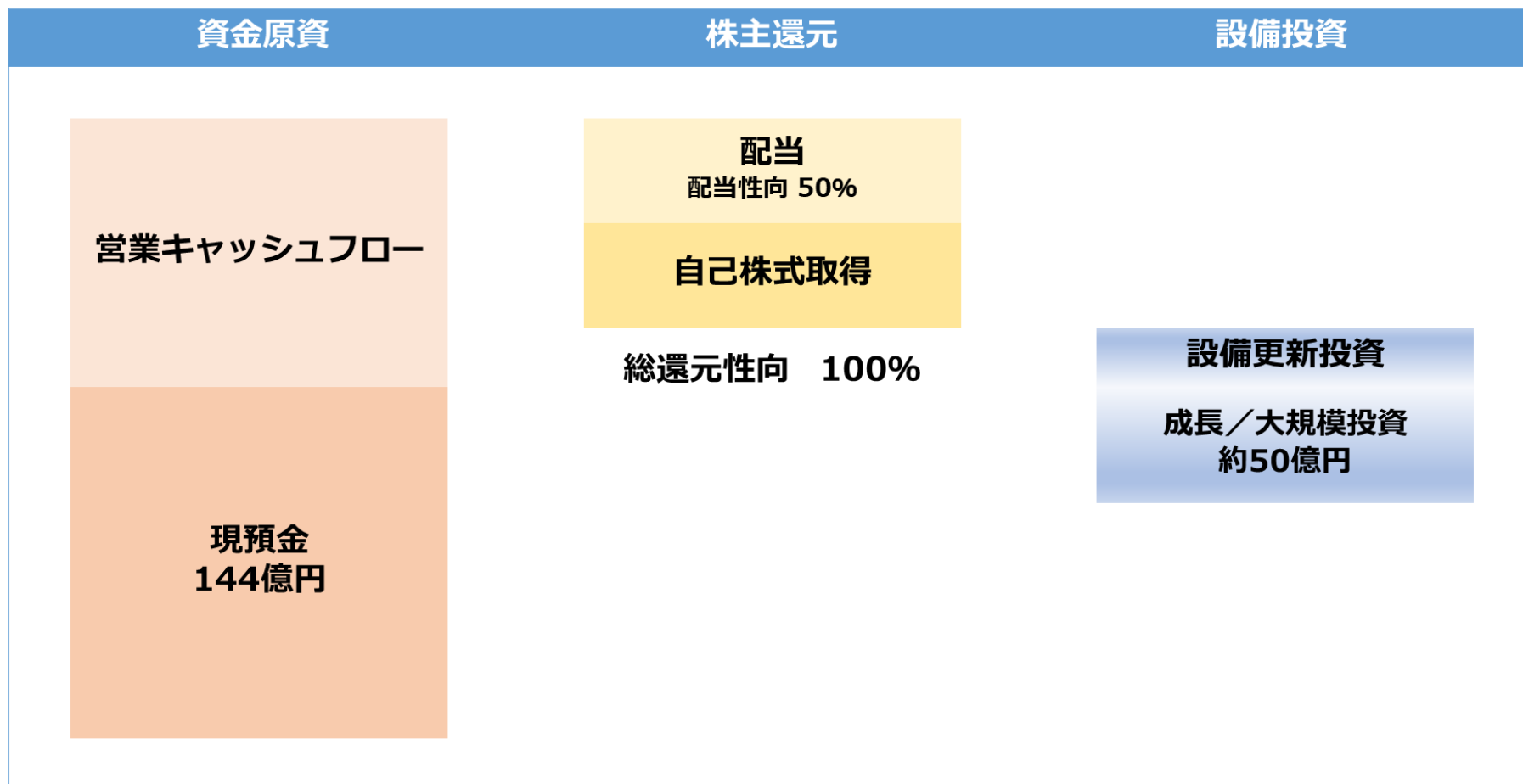
(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

資金配分

自己資金である現預金と営業キャッシュフローを資金原資として、総還元性向100%（うち配当性向50%）を目標とするとともに約50億円規模の成長投資を行う



基本方針

資本効率の改善と収益力強化の姿勢を明確にするため、現在取組み中の中期経営計画期間（2022年3月期から2024年3月期）のうち、2023年3月期から2024年3月期までの2期について、株主還元を下記のとおり変更

総還元性向 総還元性向100%（うち配当性向50%）

実施期間 2023年3月期及び2024年3月期の2期の期間

※上記期間終了後に見直し予定

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (予定)
年間配当金	36円	36円	50円	58円
配当性向(連結)	22.5%	30.5%	48.4%	50.7
総還元性向（連結）	26.3%（※1）	33.6%（※2）	91.9%（※2,3）	100.0

※1 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得

※2 2021年3月9日から2021年10月20日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を実施

※3 2022年2月9日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を発表し、2022年3月末までに1億37百万円買付。今回の自己株式の取得が完了した後、すみやかに発行済株式総数の概ね5%を残して消却する予定

成長・大規模投資概要

積極的な設備投資で収益力の強化を図るとともに、品質向上・納期短縮・充実したサービス体制で顧客満足度を向上し、リーディングカンパニーとして更なる競争優位を確立する

概要	金額
・ 海外拠点の生産能力の拡充 中国子会社の工場増設	約30億円
・ メンテナンス体制の強化 米国、東南アジアでの修理拠点の増設・拡充	約5億円
・ 子会社業務見直しに伴う設備投資 ポンプ事業強化のための国内子会社業務見直し	約15億円

※金額については計画が具体化する中で変更になる可能性があります。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

4. 環境経営への取組み

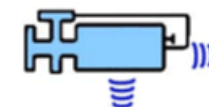


株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

主力製品であるキャンドモータポンプ

- ・ 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・ 運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献



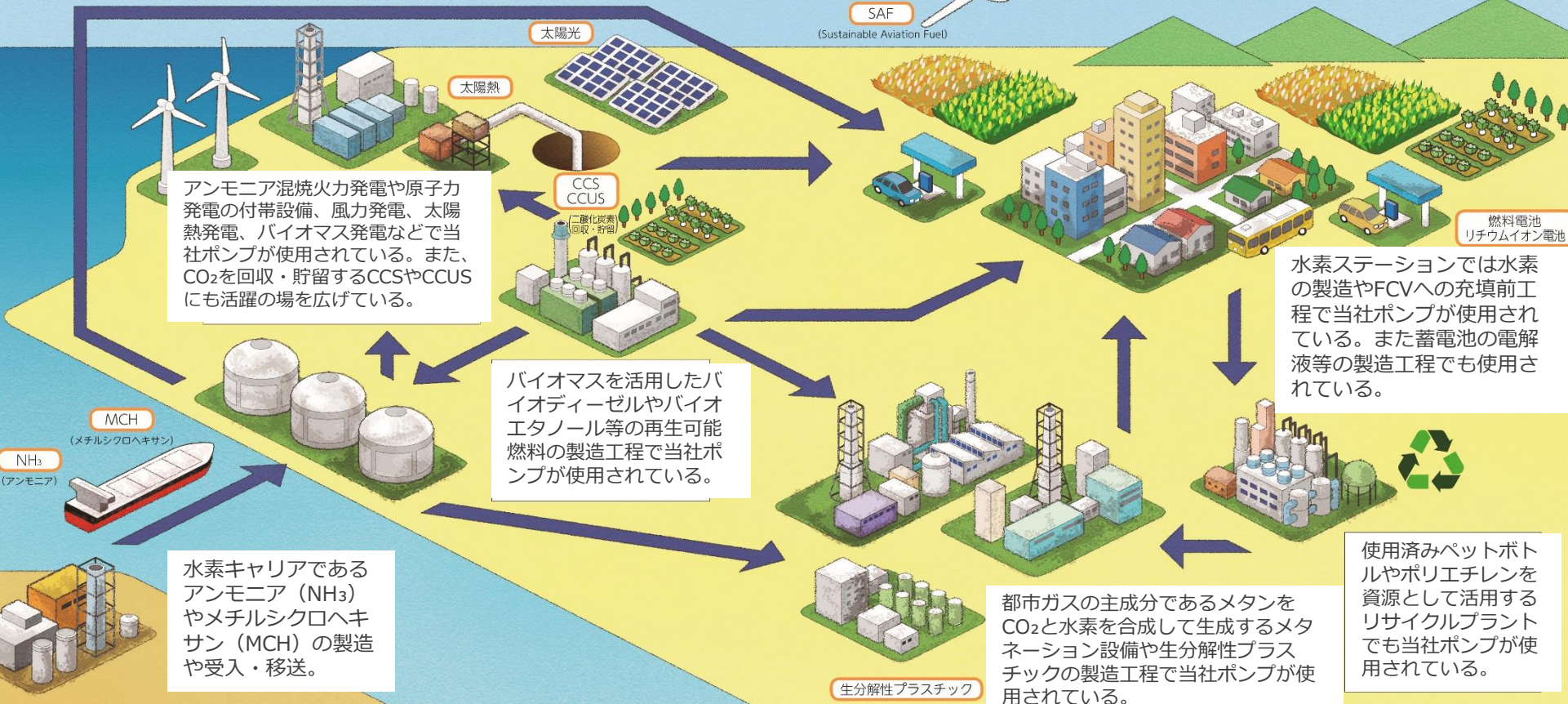
脱炭素社会移行への貢献（Zero-Carbonをビジネスチャンスへ）



株式会社 帝国電機製作所

脱炭素社会で活躍するテイクコ製品

太陽光発電パネルの製造工程で当社ポンプが使用されている。



脱炭素分野における2022年3月期受注実績

（百万円）

分野	金額
燃料関連 （航空機・自動車・船舶等の燃料として使用される水素・バイオディーゼル等）	448
発電関連 （太陽光、太陽熱、風力、アンモニア混焼火力等）	314
ケミカル関連 （ケミカルリサイクル、生分解性プラスチック等）	709
合計	1,471



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

5. 参考資料

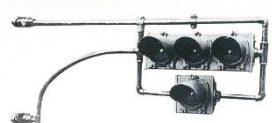
(※前回公表時からの変更はありません)



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

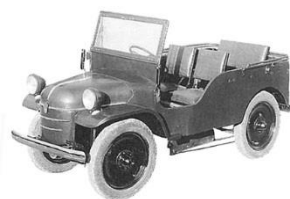
1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収



2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功



1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

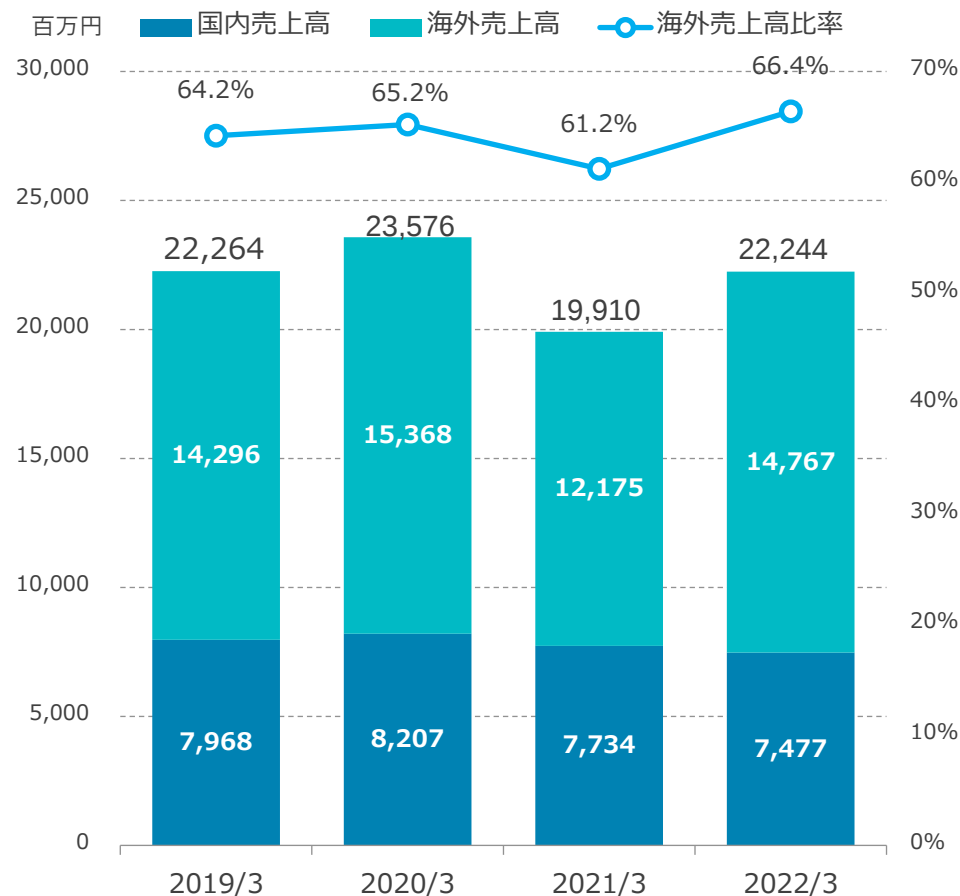
2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

当社の売上構成

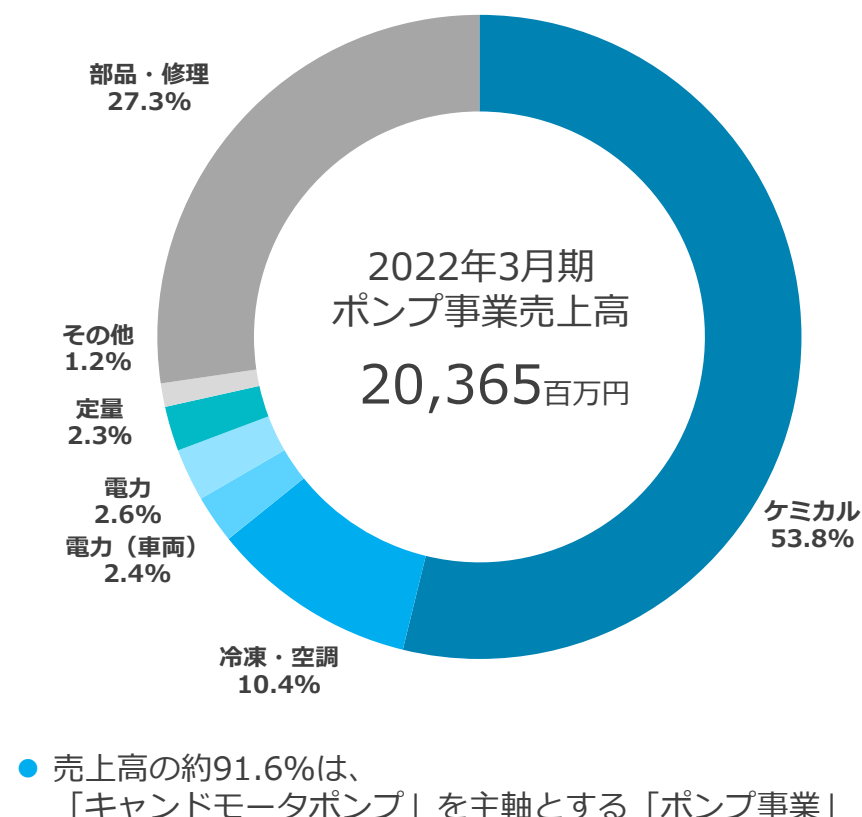


株式会社 帝国電機製作所

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



過去業績の推移



株式会社 帝国電機製作所

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
売上高 (百万円)	20,789	22,264	23,576	19,910	22,244
営業利益 (百万円)	2,300	2,025	3,750	2,262	2,494
営業利益率 (%)	11.1	9.1	15.9	11.4	11.2
ROE (%)	6.1	4.1	12.2	8.4	6.8
ROA (%)	7.1	6.6	11.1	7.1	7.9
配当性向 (%)	26.8	46.7	22.5	30.5	48.4
受注高 (百万円)	21,723	24,893	22,234	19,418	25,294
受注残高 (百万円)	7,273	9,843	8,501	8,010	11,061

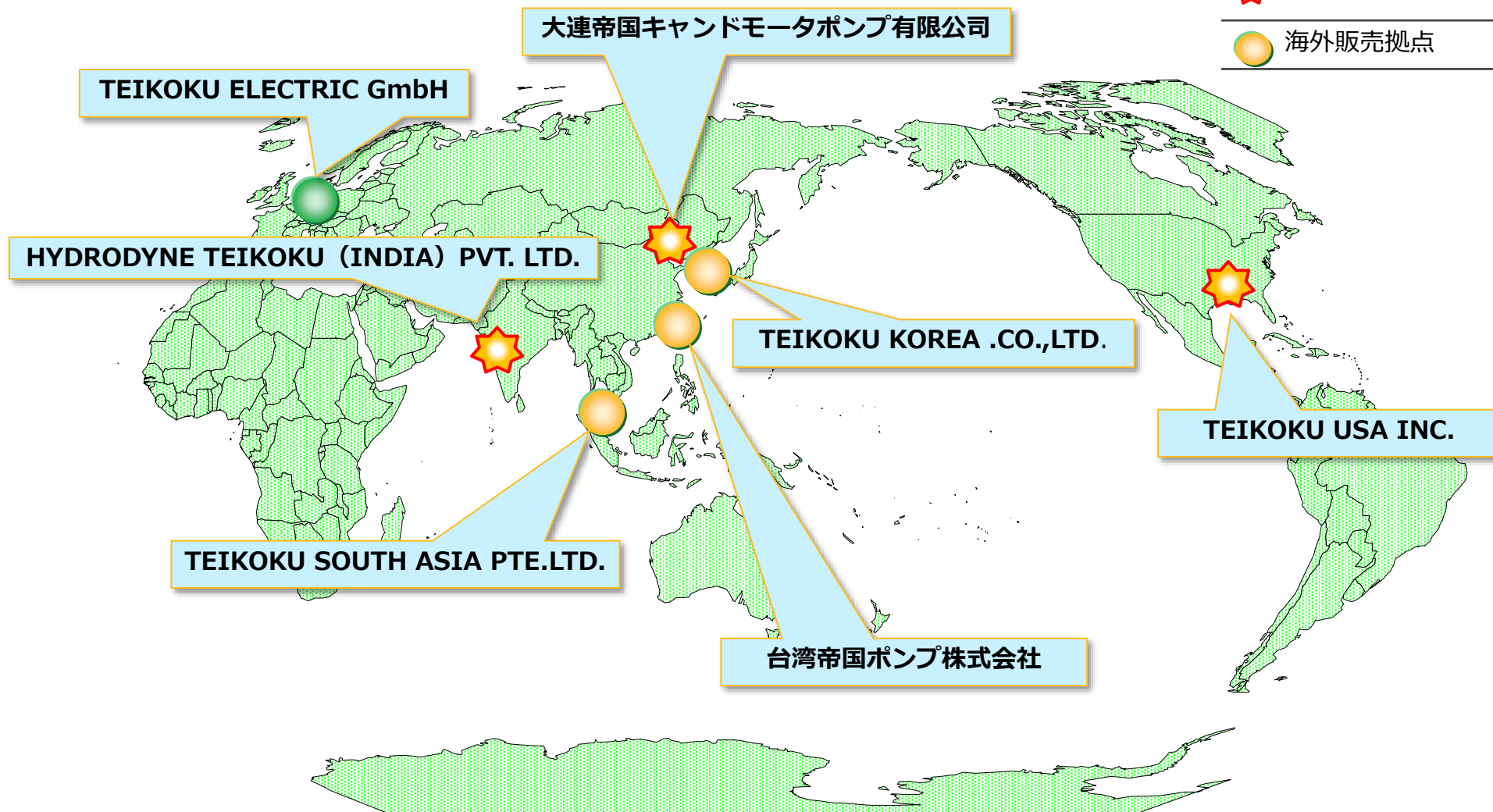
当社の海外展開



株式会社 帝国電機製作所

★ 海外製造・販売拠点

● 海外販売拠点



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンدمータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンدمータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンدمータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



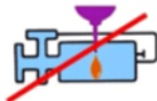
外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



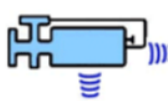
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



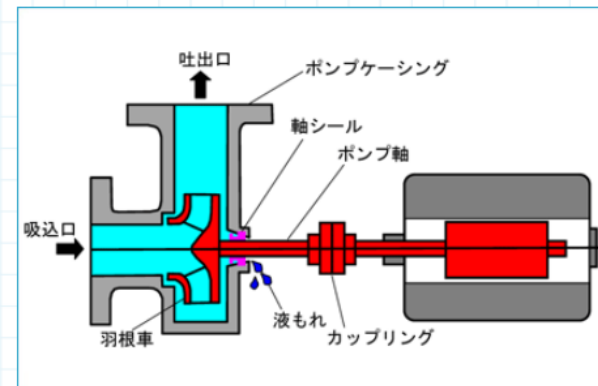
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



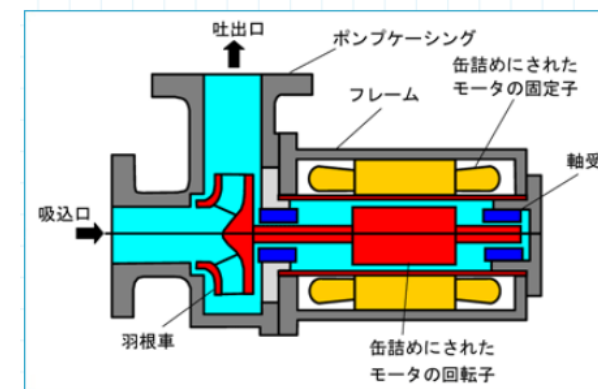
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ

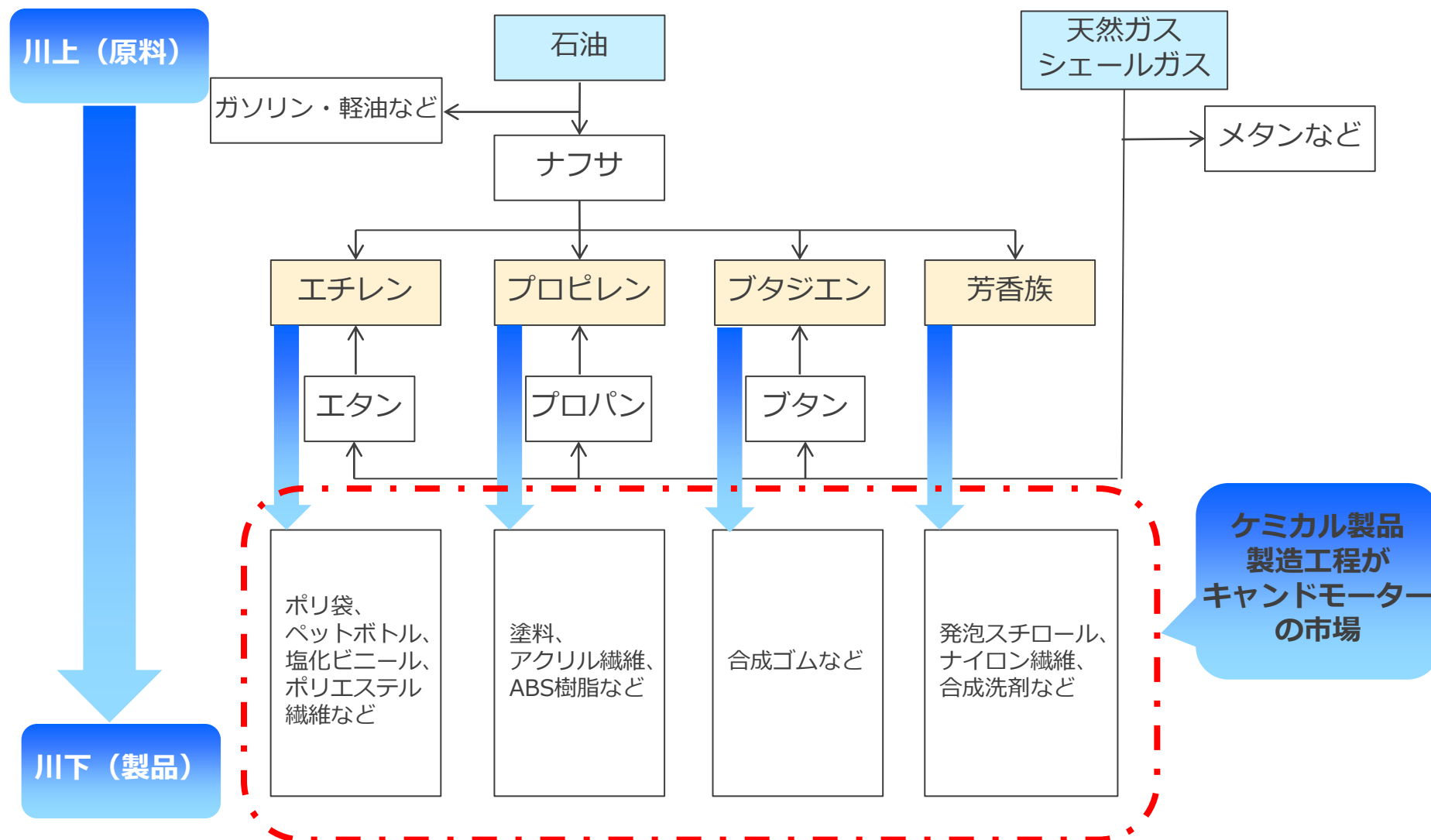


軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のティコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。

新幹線

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



大型放射光施設

大型放射光施設 (SPring-8) の加速器施設に「電磁石」が使われています。



ビル・大型施設

吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。



変電所

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。



発電所

原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。



自動車

「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもティコクの技術が活かされています。



オートガススタンド

タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。



倉庫

工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。



工場

石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。



本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようお願いいたします。